

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 1 回相模原市市民の森基本計画検討委員会		
事務局 (担当課)		津久井地域経済課 電話 0 4 2 - 7 8 0 - 1 4 0 1		
開催日時		平成 2 7 年 5 月 2 8 日 (木) 午前 9 時 3 0 分 ~ 1 1 時 3 0 分		
開催場所		緑区合同庁舎 会議室 2 - 1		
出席者	委員	7 人 (別紙のとおり)		
	オブザーバー	3 人 (別紙のとおり)		
	事務局	5 人 (経済部長、津久井地域経済課長、他 5 人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 検討委員会委員・出席者紹介 3 議事 (1) 委員長・副委員長選出 (2) (仮称) 相模原市市民の森 基本構想について (3) 基本計画と検討工程について (4) 相模原市市民の森の現況・課題、基本計画の項目について (5) その他 4 閉会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員長の発言、□は委員の発言、■はオブザーバーの発言、●は事務局(業務受託者含む)の発言)

1 開会

経済部長のあいさつ

配布資料の説明

2 委員、オブザーバー、事務局の紹介

3 議事

会議、会議録の公開について

事務局より、会議及び会議録の公開について、委員に諮り、了承を得た。

(1) 委員長・副委員長選出

事務局より相模原市市民の森基本計画検討委員会規則第5条に基づき、委員の互選で選出する旨を説明した。

互選により、委員長に下村彰男委員が選出された。

経済部長より委員長へ諮問書が手交された。

委員長からあいさつが行われた。

互選により、副委員長に坂本重光委員が選出された。

(2) (仮称) 相模原市市民の森 基本構想について

事務局より相模原市市民の森基本構想について説明を行った。

□石老山は南側が藤野地区になる。篠原におりるルートもある。藤野の人が委員に入っていないのは、いかがなものかと思う。

●相模湖まちづくり会議には、地元ということで委員選出をお願いした。また、自治会連合会と観光協会にも委員選出をお願いしているが、それぞれが市全体を抱えており、地域的な意見についても集約できると認識している。

○地域との関係の持ち方に関しては、別途、事務局と相談をお願いしたい。

(3) 基本計画と検討工程について

事務局より、基本計画と検討工程について説明を行った。

(4) 相模原市市民の森の現況・課題、基本計画の項目について

事務局より、相模原市市民の森の現況・課題、基本計画の項目について、説明を行った。

□旧ふるさとの森は、今はやっていないが、大半が藤野地区である。地権者30～

50人位で構成する相模湖自然公園ふるさとの森事業推進組合はあるが、日野、八王子、海老名など地域外の人が多く、地元の人が少ない。

○調整に時間を必要とする場所やケースも多く、この基本計画で全体像をどこまで決められるか。今後、いろいろな調整が必要だと思う。まずは、第一次基本計画といった形で進めていくことが望ましいと考える。

□緑区大島に宿泊施設（相模川清流の里）があるが、南区から来た人が「相模原にこんなところがあったのか」と驚かれる。石老山についてもアクセスはもちろん、星空観察などに関する情報も必要。

駐車場が必要だが、山からはある程度離れていてもいいと思う。山に来る人はハイキング目的が主だと思うので、山の裾野に作らずとも山から離れた入りやすくわかりやすいところに作ればいいのではないかと考える。

□相模湖地区に誘客したいという働きかけを4、5年やってきた。高尾山は年間270万人が登山している。東京側は綺麗に整備しているが、神奈川県側はほとんど整備されていない。そこで、パンフレットを配りPRに努めている。インターネットでも紹介しているため、年々ハイキングする方が増えている。

トイレや水道に関しても配慮が必要である。

新しいコースを作るということだが、できるだけ、何本かの新しい道を作ってほしい。地元の方が要望しているのは、水とアクセスの2点である。

●委員会の方でトイレやコースについて検討してほしいと思っている。事務局でも新規のルートについても検討している。まちづくり会議の方でも整備をしているので協働しながらやっていきたい。

□石老山から高塚山に歩いて下りると、国有林があり、通ることが出来る。石老山といえば顕鏡寺である。桜道というコースはなだらかでとても眺めがいい。

□市民の森の活動を考えると活動のためのエリアは北側でしかとれず、そのため基本構想でも稜線あたりから相模湖に向けた北側の林道周辺の平場を活動のための滞留スペースとして考えている。

□相模湖は自然がたくさんある。開発と相反することになりがちだが、今ある顕鏡寺などの資源や自然を有効活用して人を呼ぶことが一番だと思う。

○構想の中では、第一段階として、散策・ウォーキングゾーンとともに、森林体験管理ゾーンも整備に着手するという書き方にしている。

□散策路、ハイキングコースと他の活動エリアや管理棟は別である。ハイキング目的で来る市民の方を増やしていくために、ハードの面で対応する部分と、森林体験等、市民の森としてのソフト面も検討していかなければいけない。拠点施設は森林の整備の拠点となる建屋をつくることになるので予算付けも必要になる。

いつから対外的に「市民の森」という言葉を使えるのか。ハイキングコース等にも市民の森というタイトルを付けて石老山というような案内が出来ると、現実的

なスタートにもなるのではないか。

●正式な市の施設としての表記でなければ、問題ないと思っている。

□トイレの問題やルートの開発も検討の課題である。

●東海自然歩道は石老山の外周も入っている。市民の森になったからといって、東海自然歩道の整備が行われなくなるということではない。周辺施設として連携を図っていきたい。意見をいただきながら、調整を進めていきたいと考えている。

□構想のタイトルにある（仮称）は取れたのか。

●正式名称になった訳ではないが、（仮称）は表記しないこととした。正式名称はいずれ決めるものと考えている。

□基本構想を読んだが、山（材木）の値打ちがなくなり苦勞している。木を植えてから約70年が経ち、大きくなっていて、素人が倒すのは難しい。伐採にはお金がかかるので個人ではどうにもならない。景観伐採ができればいい。林道は山の木を出してお金にすることで県が造ったが、全然活用されていない。そういうことも考えながら進めてもらいたい。

□山に出かけるときに、高尾山のようにアクセスの良さや目玉施設がないと敷居が高い。

裾野市では、学校のカリキュラムとして、環境教育をする時間がある。小さいうちから、地元の資源と接点をもつ時間を設けていくのが良いと思う。ここでもそういうメニューが必要と考える。

○段階的にそのように進める構想となっている。面的な利用の適地は北側である。石老山は険しい山で登る人は限られている。北側を拠点にしながら、展開していくことを考える必要がある。地元との調整を含め着手が容易な所から整備を始め、森林管理も含めた諸活動に市民に参加していただき、徐々に幅広い利用に展開していくことを計画する必要がある。

■全て大きな木だとプログラムが限られる。計画の中で早めに伐採や植栽を先行してやっていくことで体験に厚みが出てくると思う。森林体験ゾーンは山の奥に行きがちだが、傾斜が急だと体験する人も大変。体験ゾーンも北側に配置したほうがよい。

(5) その他

○次回は7月30日（木）の午後で調整をする。

4 閉会

第1回相模原市市民の森基本計画検討委員会委員出欠席名簿

【検討委員会委員】

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	下村 彰男	東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授	委員長	出席
2	竹田 幹夫	相模原市自治会連合会 監事		出席
3	穴吹 正男	相模湖地区まちづくり会議 理事		出席
4	坂本 重光	津久井郡森林組合 代表理事専務	副委員長	出席
5	永井 宏一	一般社団法人相模原市観光協会 副代表理事		出席
6	諏訪 秀男	公益財団法人相模原市まち・みどり公社 事務局長		出席
7	伊倉 太輝	公募委員		出席
8	高橋 陽子	公募委員		欠席

【オブザーバー】

	氏名	所属等	出欠席
1	石井 洋三	神奈川県 県央地域県政総合センター 水源の森林部 部長	出席
2	西口 孝雄	神奈川県 県央地域県政総合センター 農政部 森林保全課 課長	出席
3	厚沢 明宏	神奈川県 自然環境保全センター 研究企画部 自然再生企画課 課長	出席